

<キリスト教豆知識>

【使徒行伝】今朝の“使徒行伝”は、“ルカによる福音書”の続きのように、ルカによって書かれた、最初のころのキリスト教会とその伝道の出来事を記したものです（1:1、この書物の中で“私たち”と記されている所は、ルカとパウロ達のことです）。日本語の聖書によっては“使徒の働き”とか“使徒言行録”などと名前が付けられています。

【会堂】“安息日に会堂にはいて席に着いた（13:14）”とあります。この会堂というのは、ユダヤ教の集会所、礼拝の場所で、安息日になるとユダヤ人たちはここに集まり、旧約聖書の律法や預言書が開かれ、礼拝が行われていました。キリスト教は最初、ユダヤ教を信じる人々の中でイエスキリストの救いを述べ伝えることから始まったことが分かります。会堂と並んで“祈りの場所”という言葉も出てきますが、同じような意味で用いられています。16:13,16等に出てきます。

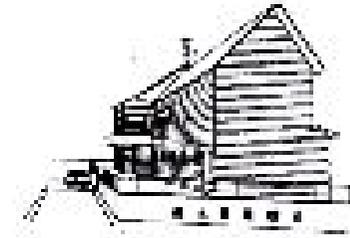
【アブラハムの子孫】この言葉が“兄弟たち、アブラハムの子孫のかたがた、ならびに皆さんの中の神を敬う人たちよ”のように用いられていることを思い巡らしてみましょ。アブラハムは創世記に出て来る、神から選ばれ、救いの成就の為に最初に用いられた人で、ユダヤ人たちには絶対的な権威のある名で、その子孫であることは、彼らの証であり誇りでした。この人たちに、パウロは伝道者として“兄弟たち”と呼びかけています。彼らはユダヤ人だったことが分かります。またこのことは“兄弟たちよ、もしあなたがたのうち、どなたか、この人々に何か奨励の言葉がありましたら、どうぞお話し下さい”と15節で、会堂の責任者（司）が呼びかけていることから分かります。

【彼らの奨励】ここでは奨励とありますが、説教そのものでしょう。しかも別に新しいことを語ったのでもありません。現在のキリスト教会で学ばれている旧約聖書のエッセンスを語り、イエスはそのようにして神様から送られ、救いを成就されたのだ。このメシヤの到来はあなた方も信じている変わることのない“確かな約束だ”と語ったのです。“祭司たちも多数、信仰を受け入れるようになった（6:7）”と、先に記録されている通りです。ここにある祭司はユダヤ教の聖職者のことです。このようにしてイエス様は、まずユダヤ人の中に、それから日本人などの、彼らからすれば異邦人にも、広くヨーロッパを経て、真理として受け入れられてきたのです。

【約束】私たちは多くを学び、また悔改めもします。なぜなら神から与えられた約束（契約）が限りなく真実だからということに根ざしています。救いに加えられ、力を得ていることこそ忘れてはいけない真実なのです。

週報

2010年 6月 27日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042